

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから



サポートセンターは今年6月に開館20周年を迎えます

開館20周年を前に、昨年2月には施設の一部改修が行われたサポセン。特に、1階は情報発信の拠点として、チラシなど紙媒体での情報発信に加え、展示スペース「マチノワギャラリー」(サポートセンター入口)や、ちょっとしたイベントもできる「マチノワひろば」が登場。様々な形で情報発信ができるようになりました。マチノワひろばでは、壁面にプロジェクターで投影したり、輪になって話し合ったり、様々な使い方を試みてきました。みなさんも、マチノワひろばを使って市民の皆さんに発信したいことがありましたら、サポートセンターのスタッフまでご相談ください。(太田)



サポセンは「自分たちの住まわちや社会を、もっと良くしたい」そんな市民の自発的な活動を応援します

● 中に入れればたくさんの情報がお出迎え！

1階のマチノワひろばでは、市民活動団体から受け付けたイベントチラシやニュースレターを配架しています。3階の情報サロンには、仙台市内外の市民活動団体・NPOの情報や団体のニュースレターのバックナンバー等を取り揃えています。仙台のまちにどんな団体がいて、どんな活動をしているのかを知ることができます。

● いろいろなイベントや講座も開催しています！

肩書きや世代を超えて交流し、学び合中で、何かを始めるきっかけを掴んだり、同志を見つけたりと、モヤモヤしていた思いが形になっていきますよ。チラシの他、ホームページやツイッターなどで告知しますので、チェックしてみてください。

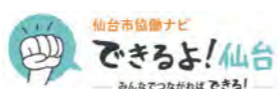
● 新たな一歩を踏み出すためにご相談ください！

「こんなことがしてみたい」というアイディアはあるけれど手段が分からずにいる方も、活動はしているけれど思った通りにいかない方もサポセンにご相談ください。考えを一緒に整理し、課題解決をサポートします。(鎌田)



仙台市から 協働ナビゲーションサイト「できるよ!仙台」を開設しました

「できるよ!仙台」は、協働によるまちづくりを進める際に活用できる支援制度や相談窓口の情報から、市内の活動事例や取り組みの参考となるデータ、マニュアルなど、様々なお役立ち情報をご紹介しますウェブサイトです。これから市民活動や協働に取り組みたいと考えている方も、またすでに取り組んでいらっしゃる方もぜひご利用ください。<https://www.kyodonavi-sendai.jp/>



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 4月10日(水)、24日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分  
[HP]<https://www.sapo-sen.jp> [Blog]<http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter][@sensapo](https://twitter.com/sensapo)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

▶ 市民ライター

[http://blog.canpan.info/fukkou/category\\_23/1](http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1)

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス  
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター  
発行日 2019年4月1日  
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター  
デザイン PEACE Inc.  
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ  
発行部数 3000部  
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

# ぱれっと

サポセンは2019年6月に開館20周年を迎えます!

祝

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.236

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

ProdYouth 代表

さとう しゅう  
佐藤 柊 さん (20)

社会課題に気付いた  
自分には使命がある

「東北というフィールドで、社会課題の解決に必要なものを自ら生み出したい」と力を込めるのは、東北福祉大学3年の佐藤柊さんです。2025年問題、一次産業の衰退、子どもの貧困など様々な社会課題に関心があります。未来を担う若者が社会課題の解決にコミットできるよう、社会参画できる機会や行動をプロデュースしています。出身は秋田県。高校時代、ボランティア同好会に所属していました。学校が避難所指定を受けていたことから、同好会が避難所運営を想定した宿泊訓練を企画。運営を通じて、けが人への対応、物資の管理など様々な課題解決に挑みました。「状況を改善し、人の役に立つことが楽しかった」と振り返ります。社会の課題に関心を持ったのは、2017年4月、秋田県の人口が100万人を切ったと知ったこと。人口減少という耳慣れた言葉が初めて身近になりました。「社会構造が変わり多様な課題が顕在化する今、若者が解決に向けた意思決定に関わることが大切です」。まずは、自分事として考えるところから。より良い社会を創ろうと意気込んでいます。

取材・文 鈴木智子

ProdYouth(プロデュース)

Mail [prodyouth47@gmail.com](mailto:prodyouth47@gmail.com) Facebook @ProdYouth

「若者の政治・社会参画をプロデュースする」をミッションに若者が創る持続可能な社会を目指しています。活動の柱は「政治家と若者をつなぐイベント」「政治や社会について気軽に話せる場づくり」「シティズンシップ教育」「社会問題の解決に関するイベントや協働促進」です。2018年7月にサポセンで開催した「政治×若者」では、若者30人と県内の議員8人が気軽に政治の話をする場をつくりました。

特集

まちおこしは面白さから  
周遊型謎解きゲーム

レポ  
撃  
ト!

社会に開かれた場所で  
あり続ける



地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

# まちおこしは面白さから 周遊型謎解きゲーム

一般社団法人まちくる仙台(以下、まちくる)は、仙台市中心部にある8つの商店街を舞台に謎解きイベント「謎解き街歩きin仙台市中心部商店街第二幕『伊達政宗と商店街のたからもの』」を実施しました。仙台市中心部を盛り上げようと、仙台市の委託事業として、2018年と2019年で2回開催。参加者は子どもから高齢者までのべ2万人に上り、地域のさらなる活性化へと歩みを進めています。まちおこしに謎解きが融合した取り組みをご紹介します。

**一般社団法人まちくる仙台**

仙台市中心部商店街を盛り上げたい



すがわらあきら 菅原晃さん  
さくらいひさのり 櫻井久則さん

**謎解き街歩き仙台市中心部商店街**



**謎社プロジェクト**

まちの活性化に謎解きを活かしたい



ねもそういちろう 代表 根本聡一郎さん

## 謎解きイベントで誰もが物語の主人公に

イベントは2月から3月までの商店街閑散期を利用して開催され、大勢の参加者で賑わいました。参加者は市内各所で「伊達政宗と商店街のたからもの」と題した謎解き冊子入手し、謎を解くため仙台市中心部を周遊します。設定は、伊達政宗の家臣の一員となって「たからもの」を探し出すというもの。謎を解く手掛かりは仙台市中心部にある商店の看板やマンホール、横丁の提灯などに隠されています。参加者は冊子に書かれたお題に従い、サンモール一番町商店街の神社でお参りをしたり、本町商店街の小道について知識を得たりしながら謎を解く手掛かりを探します。個人が持つ知識の広さで解答するクイズとは違い、物事の観察や分析をして法則から答えを導き出すのが謎解きの魅力です。全ての謎を解き、たどりついた最後の答えを書いたハガキを主催者に送ると、抽選で豪華賞品が当たります。

参加者からは「仙台にこんな場所があるなんて知らなかった」と感心する声も。また、まちくるには「普段訪れることのない客層がイベントを機に来店するようになった」と商店街から喜びの声が届くようにもなりました。

まちくるは普段、仙台市中心部を盛り上げるために活動する仙台市中心部商店街活性化協議会(※)の実行部隊として、商店街で大道芸をはじめとするイベントなどを企画しています。

「若い世代を商店街に呼び込もうと企画したが、意外にも親子やお孫さんを連れた高齢者等の姿も見受けられ、結果、幅広い年齢層が県内外から参加してくれた」とまちくるの菅原晃さんは目を輝かせます。

謎を考えたのは謎社プロジェクト(以下、謎社)です。2014年に仙台市主催の地域課題解決について考えるプレゼンイベントに現謎社のメンバーで参加。「仙台市中心部に人を呼び込もう」というテーマに対し、街を舞台にした周遊型謎解きで観光誘致することを立案し、2つの賞を獲得しました。受賞を機に2015年、任意団体として設立。現在15人の学生と社会人で活動しています。地域観光を盛り上げるため、まちくるとの謎解きイベントの他、仙台市主催の地下鉄東西線沿線観光誘致を目的とした謎解きゲーム「WE QUEST」に謎製作として携わっています。

## 謎解きが地域を知るきっかけに

かねてより仙台市中心部では、仙台駅周辺を買い物や観光で利用する人が多いのに対して、中心部商店街を巡る人の少なさが課題となっていました。まちくるは「来仙した人にもっと中心部商店街の魅力を知ってもらいたい」と、当時テレビ番組等で全国的に流行していた謎解きイベントを参考に今回のイベントを企画。仙台市のまちづく



りに、謎解きを通じて積極的に関わっていた謎社に声を掛けました。代表の根本聡一郎さんは「お話をいただいたとき、率直に嬉しかった。自分たちこそ力になりたいと思った」と話します。

謎解きの設定を考案した根本さんは、「謎解きで一番大事なのは没入感。伊達政宗の家臣で城下町を回るといふ物語の主人公としてまちを歩けば、今まで見過ごしていた情報を注視するようになり、新たな発見に繋がったりするんです」と話します。

根本さんは謎を解く手掛かりとなる場所をピックアップするために、8つの商店街を全て回り、地域の人たちにさまざまな情報を聞いて回りました。それらの情報と400年という仙台の歴史の深さから、地域独自の謎解きが生まれました。根本さんが謎解きを仕掛ける場所の使用許可を取るために商店街の所有者に掛け合うのは、まちくるの菅原さんと櫻井久則さん。「商店街との普段の関係性が活かされた」と櫻井さんは胸を張ります。

## “発見”が地域課題解決へ

根本さんは「主体的に参加することで自ら地域独自の魅力を発掘した気分になれる。謎解きの舞台となった中心部商店街には親しみを持ってもらいたい」と思いを込めます。櫻井さんは「謎解きイベントをきっかけに中心部商店街に愛着を持つ人が増えてほしい」と、これからの人とまちとの関わりに思いを馳せます。(取材・文 鎌田 みずほ)

※「仙台市中心部商店街活性化協議会」は、平成22年に策定された「仙台市中心部商店街将来ビジョン」に基づき、中心部の8つの商店街振興組合を中心に仙台商工会議所、河北新報社、仙台市が連携し、中心部商店街の魅力発信と賑わいの向上に努め、自立的発展につなげていくエリアマネジメントの推進主体として、平成29年4月に立ち上げた組織です。

- 一般社団法人まちくる仙台 HP <https://machi-kuru.com/> Mail [info@machi-kuru.com](mailto:info@machi-kuru.com)
- 謎社プロジェクト Tel 070-5475-5478 Mail [info@mazomori.com](mailto:info@mazomori.com)



活動に役立つ書籍をご紹介します

## お役立ち本

### ハンセン病 日本と世界

編者:ハンセン病フォーラム 発行:工作舎

ハンセン病とは、らい菌により皮膚や末梢神経が侵される感染症です。昔は治療が難しく、四肢や顔面に著しい変形をきたすこともあったため、患者たちは長らく烈しい差別にさらされ、療養所への隔離を強いられました。1996年に「らい予防法」が廃止された今でも差別を恐れ故郷に帰れない人がいます。元患者、日本や世界で支援活動を行う人々など総勢41名が綴った文章から多角的にハンセン病をとらえ、忘れてはいけない歴史的事実を伝えます。



活動を始める一歩を応援します

## コトハジメ

### 使用済み切手整理活動 「きってきっぺ」参加者募集!

JOCSの活動を仙台圏で援助する事を目的として、1999年3月に始動。活動場所はサポセンです。毎月第2土曜日、午後2時から寄付された使用済み切手を整理しています。整理した切手は換金され、アジアやアフリカの保健医療向上のために役立てられています。ぜひお気軽にご参加ください。

問い合わせ先 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS) JOCS東京事務局 TEL 03-3208-2416 FAX 03-3232-6922



## 市民ライター 渡邊 貴裕さんの突撃レポート!

取材団体名 / 認定NPO法人 麦の会

## 社会に開かれた場所であり続ける



▲コッペの前で集合写真

認定NPO法人麦の会は、仙台市宮城野区松岡町にあるパンとクッキーのお店「コッペ」を運営しています。従業員約30人、うち18人の障がい当事者が働く就労継続支援B型事業所です。安心安全な材料で作られたパンとクッキーは、お客様から「美味しい」と評判です。

代表理事の飯嶋茂さんは、外国人差別、障がい者差別、あらゆる差別を無くすことを目的とし、障がいのある人も無い人も共に働ける場を作ろうと、1988年にコッペを開業。2018年12月に30周年を迎えました。

飯嶋さんは、コッペを運営してきた中で、2016年に相模原市「津久井やまゆり園」で起きた障がい者殺傷事件には、大きな衝撃を受けました。「障がい者は社会

に必要なという考えは犯人だけに限ったことでは無い。差別を無くそうと、30年かけてやってきたことは無駄だったのでは」と飯嶋さんは落胆しました。

しかし、コッペに毎日通勤してくる障がい者の姿は、長い年月をかけて町の日常の風景として認知されるようになりました。地域コミュニティーの一員として、東部市民センターのお祭りに毎年参加しています。店頭では接客が得意な障がい者が販売を担当し、商品の説明もします。障がい者の日々のありのままの姿を見てもらい続けてきたこと、それがコッペが30年間積み重ねてきた実績です。

これからも、地域の人々との交流を深められる場所であり続けて欲しいと願います。